

農作業特報

黒部市
黒部市農業技術会議

春の土づくり

「いざ、土づくり！美味しい富山をとどけよう！」

①土壌改良資材及び堆肥の施用

土壌改良資材を昨秋に散布しなかった場合は耕起前に必ず散布するとともに、堆肥等有機物の施用に努めましょう。

資材名	10a当たり施用量	効果
粒状ケイカル	200kg	ケイ酸補給、酸度矯正
シリカロマン	100kg	
米取けいさん鉄	80kg	鉄分・ケイ酸補給、秋落ち防止
発酵鶏ふん	100kg	リン酸・カリ補給、秋落ち防止

土壌分析結果、調査ほ場の半数以上でケイ酸やカリが不足していました。

②深耕による作土層の拡大

耕起は、作土の深さ20cmを目標（現状より3cm深く）に、トラクタの速度を落としてゆっくりと行いましょう。

作土層を深くすることで、稲の根域が拡大し、気象変動や倒伏に強くなります。

育苗～田植えの計画

～作業の前に、GAPで点検！～

高温登熟を回避するため、**コシヒカリの田植は5月15日を中心に行いましょう。**

【8月5日頃に出穂期をむかえるための田植え日の目安】

	田植え	出穂期	成熟期
前沢（山手）、東布施（山手）、愛本	5/10	8/5	9/19
下立、浦山	5/12	8/5	9/16
前沢（平場）、東布施（平場）若栗、荻生、田家、大布施、村椿、石田、生地、牧野	5/15	8/5	9/15

【田植え日に合わせた育苗作業】

比重選・種子消毒	浸種	催芽	播種	ハウス搬出	田植え
4/7	4/8	4/16	4/18	4/21	5/10
4/15	4/16	4/23	4/25	4/28	5/15

無加温育苗の場合はハウス搬出～田植までの日数は5日程度長めになります。

※穂数を確実に確保するため、育苗計画では**栽植密度70株/坪に合わせた必要箱数を用意しましょう。**

種子消毒～播種～出芽

- ①比重選 充実の悪い籾や、ばか苗病等の保菌籾を除去する。
 比重：うるち1.13（硫安5.3kg/200）、もち1.08（硫安3.0kg/200）
 ※硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後は十分に水洗いをする。

- ②種子消毒 モミガードC水和剤：**200倍液に24時間浸漬**
種籾10kgに対して薬剤100g/水200

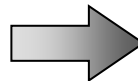
- ③浸種 1) 発芽を揃えるために、十分に吸水させる。
 2) 水温**10～15℃で7～10日間程度**。（特に、浸種初日は水温12.5℃程度に保つ）
 3) 水は**1～2日毎に交換**する。また、こまめに芽出し袋の上下入れ替えを行う。
 浸種期間の後半は、毎日水を入れ替える。
 （浸種積算温度100℃以上が目安：水温×日数=100℃・日以上）

- ・水温10℃未満や20℃以上では、芽の揃いが悪くなりやすく、不均一となります。
- ・水温15℃を超えそうな場合は、頻りに水の入替えを行いましょう。
- ・浸種桶は直射日光を避け、温度変化の少ない場所に設置しましょう。

- ④催芽 ◆**30℃で行い、芽の長さハト胸～1mm程度に**
 ・30℃・1日を基本とするが、芽の伸びに応じて時間調整する。

厚播きは、軟弱徒長や病害の発生を助長します

- ⑤播種 ◆**播種量は乾籾120g/箱**
 （催芽籾は容積190～200ml）
 ※播種前に空箱で播種量を確認する。



- ⑥出芽 ◆**育苗器は30℃で2～3日**
 ・育苗器のサーモスタットや温度計を事前に点検し、こまめに育苗器の温度をチェックする。
 ・芽の長さが1cmに揃ったら搬出する。

育苗期間の温度管理

育苗期間の気温が高いと、苗は軟弱徒長となりやすく、細菌性病害も発生しやすくなります。ハウス内の**温度と水管理に十分注意**して下さい。

◆ハウスの温度管理の目安

	緑化（2～3日）	硬化前期（7～8日）
昼間	25℃以下 ※30℃を超える時は早めに換気する	
夜間	10℃以上。 ※5℃以下の低温が予想される場合はハウス内の保温に努める	
かん水	・搬出時に覆土を落ち着かせる程度 ・ハウス搬出後は、水不足や高温による葉ヤケに注意	・床土の乾きに応じてかん水を行う ・水のやり過ぎに注意（カビや病気の発生を助長し、根の伸びが悪くなる）
	・床土によって水持ちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意する。	

注) ハウス搬出後は、カンレイシャ等の被覆資材で2～3日遮光を行う。

春の農作業安全運動！ 4月1日～5月31日